



アセアン諸国の宗教事情

松本 隆平

筆者は、今まで、アセアン多面的機能調査研究プロジェクトをはじめ、APEC等を通じ、アセアン諸国の方々とのつきあいが多かったが、そのなかで一番印象に残っているのが、宗教心であり、かれらの宗教事情を横断的にみてみることにする。

アセアン諸国では、以下の通り、仏教、回教、キリスト教及びヒンズー教が混在している。これは、それぞれの国の採った移民受入政策による多様な民族構成に起因する。

ブルネイ : 回教, 仏教, キリスト教
 カンボジア : 仏教 (上座部)
 インドネシア : 回教, キリスト教, ヒンズー教
 ラオス : 仏教 (上座部)
 マレーシア : 回教, 仏教, ヒンズー教
 ミャンマー : 仏教 (上座部), 回教
 フィリピン : キリスト教, 回教
 シンガポール : 仏教, 回教, ヒンズー教, キリスト教
 タイ : 仏教 (上座部) 回教
 ベトナム : 大乘仏教, キリスト教

それでは順にみていくことにする。まず、仏教であるが、ベトナム以外のタイやミャンマー等5か国において、戒律の厳しい上座部が信仰されている。これらのなかで、ミャンマーを取り上げたい。現地に行くと、特に目を引くのが、町・村を問わずどこへ行ってもある豪華なパゴダである。これは、地域住民等の寄付による。筆者の友人である農業省のある部長は、乗車中、会話中にも、パゴダが見えてくると自然に手を合わせ、幸運を祈っている。また、実際にパゴダを訪れると、その中には7つの小さな仏陀がまつられており、それぞれ、自分の生まれた曜日を司る仏

陀に参る仕組みとなっている。筆者は、自分の生まれた曜日までは覚えておらず、とまどった記憶がある。このような場合には、誕生日と誕生日のマトリックス表が用意されており、これにより、簡単に誕生日の曜日が割り出せる。

次に、回教について、アセアン事務局の元局長（マレーシア人）の話を中心に紹介したい。まず寄付についてである。給料の数%を自動天引きされ、それがメッカに送金される仕組みとなっている。仮に彼の年収が一千万円、その5%が天引きされるとすれば、毎年60万円もの大金が送金されることとなる。本人は、この寄付に非常に満足している。次に、お祈りについてであるが、毎日、5回お祈りすることである。また、出張の際は、メッカの方向を示すコンパスを携帯し、どこに行ってもその方向がわかるようになっているとのことである。また、メッカへの巡礼については、一生に一度は行くことになっており、職場もこのための休暇（約1か月）には理解がある。ただし、飛行機代とメッカでの宿泊費を合計すると30万円はかかると思われるので、インドネシア人の平均年収（千ドル）から考えると、富裕層のみが参加できるのではないと思われる。

このコラムを締めくくるに当たり、日本人がなぜ宗教心に欠けているかについて考えてみたい。私見ではあるが、個人のなかで神道と仏教が共存していること、おおむね他の民族との混住状態にはないこと、の二点を挙げたい。まず、第一点目は、アセアン諸国をはじめ他の国々では、一個人は一つの宗教を信仰しているとみられ、我が国のように一人で二つの宗教を受け入れること自体、宗教心が薄いと考えられないか。また、第二点目については、ミャンマーのヤンゴン市を例示したい。ミャンマーは、インドやバングラデシュに隣接しており、また、英国植民地時代にはインド人による間接統治が行われた。この影響で、現在でも町中では、ヒンズー教徒や回教徒であるインド人やバングラデシュ人が商業を営んでいる。彼らがそれぞれの宗教を熱心に祈るので、彼らの宗教に染まることのないよう、ミャンマー人も仏教への宗教心が高まるのではないかと考えられる。